



全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライターズ

第66号 2014.2.20

(年3回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集/ふるきやらネットワーク

〒184-0004 東京都小金井市本町6-3チ-ム石原内

TEL:042-386-8355 / FAX:042-385-1180

<http://www.yukidarama.or.jp/tanada/>

## 特集・第19回全国棚田サミット

現地見学会——あらき島の棚田——あらき島コースはあらき島の中へ降り、田んぼを歩いた



現地見学会——沼の棚田。ガイド役を務めるたま、「おもてなし会場」で参加者たちをおもてなす和歌山大学「棚田ひかる」のメンバー



現地見学会——三田の棚田。  
あらき島を見下ろせる三田の  
棚田も重要な文化的景観である



沼にて。地元女性たちも和歌山大学生と  
同じピンクジャンバーでおもてなし



あらき島にて。有田中央高校の女子生徒  
たちは早乙女に扮し、おもてなし



あらき島にて。地元のみなさんも、  
参加者をお出迎え



特集・第19回全国棚田サミット内容紹介——  
分科会感想・現地見学会レポート、参加者感想  
等……棚田エネルギー考⑤高知県梼原町

三田で振る舞われたおもてなしの饅寿司が大好評

# 第19回全国棚田(千枚田)サミット開催!

ありだがわちょう

和歌山県有田川町にて

2013年11月8、9日

## ・開催プログラム・

<1日目 11月8日(金)>

・オープニングセレモニー：  
町立八幡小学校ほか合唱「棚田へ行こう！」

### ・開会式

・基調講演 写真家 青柳健二氏  
「棚田は何故美しいのか」

・事例発表：1. 和歌山大学観光学部  
2. 県立有田中央高校

### ・分科会

第1分科会「棚田と文化的景観保全のあり方、取り組み」

第2分科会「梯田(棚田段々畠条件不利地域における土地利用)  
の意義と保全」

第3分科会「棚田保全活動を契機とする地域活性化地域づくり」

第4分科会「学生ボランティアと地域による棚田保全への取組」

### ・首長会議／棚田保存会意見交換会

### ・全体交流会

<2日目 11月9日(土)>

・現地見学会：あらぎ島／三田の棚田／沼の棚田

### ・分科会まとめ(報告)

### ・閉会式／エンディングイベント「お餅まき」



町立八幡小学校全児童、清水保育所年中。年長園児による「棚田へ行こう！」



町立八幡小学校の子どもたちが地元伝統太鼓の披露も

我が町の棚田「蘭島」は、江戸時代の初期、食糧難の時代、当時の庄屋が私財を投げ打って開墾されたもので、県内では、唯一日本の棚田百選に選ばれており、サミット直前の10月には、「蘭島及び三田・清水の農山村景観」として国の重要文化的景観に選定されました。

首長会議では、TPP交渉も進む中、ご出席頂いた農林水産省担当課長からは、「攻めの農業として平地を大区画化し、経営面積を大きくする『産業政策』と中山間地域のような条件不利地域でも多面的機能に着目して農地として維持していく『地域政策』を車の両輪として進めていく」とご発言頂きました。

今後も棚田、中山間地域を取り巻く情勢は、厳しく険しい道のりになると思いますが、年に一度の「棚田(千枚田)サミット」を通じ、お集まりになった皆さんと共に、より一層、棚田保全に対する意識を高め、日本の原風景「棚田」、人々の営みがあるからこそ、見ても美しい「棚田」を今後も守り続けましょう。

和歌山県 有田川町長

中山正隆

830名のご参加に感謝して



「第19回全国棚田(千枚田)サミット」は、北は北海道、南は鹿児島県、全国40都道府県より830名ものご参加を頂き、おかげさまで盛会のうちに無事終了する事ができました。ご参加いただきました皆様に心から感謝し、厚く御礼を申し上げます。

当サミットでは、中山間地域での少子高齢化・過疎化が深刻な問題となる中、全国各地の棚田でそれぞれ活躍の皆様と共に棚田保全に対する意識をより一層高めることができたものと、総括しております。

また、この2日間は、日頃、棚田を保全している地域住民と今後、棚田保全の一端を担う大学生や地元高校生など多くの若い力が集結した本当に有意義なサミットになったと考えます。

「中山間地域での活動から学んだこと」  
和歌山県立有田中央高等学校

「沼の棚田」における取り組み  
和歌山大学「棚田ふあむ」田口貴浩氏



「中山間地域の農業とくらし」をテーマに、フィールドワークなど学習に取り組む有田中央高校の生徒たちが、「農業クラブ近畿大会」で優秀賞となった研究内容を発表。「災害から気づいたこと」として耕作放棄地への放牧導入の研究のほか、「校内模擬カンパニー」を設立して地域活性化を考え、働くことを学んだ事例が報告された。



有田川町沼地区で地元と一緒に棚田保全活動を行う和歌山大学観光学部学生ボランティア「棚田ふあむ」の報告。2011年からの耕作放棄地でのソバ栽培にはじまり、地元との交流、50年ぶりに地元の伝統行事(神社への餅担ぎ奉納)の復活、米作り、活動日誌の配布などを報告。3年間の実績を感じさせた。

事  
例  
発  
表



日本の棚田百選134か所すべてを写真に収め、世界各国の棚田を追いかけ続ける青柳氏が美しい棚田写真とともに「棚田の美」を語った。ネパール、マダガスカル、イランなど世界の棚田が紹介されたのち、グローバルな視点で日本の棚田を紹介。そこから日本の棚田が、海に面している、月を鑑賞するなどの文化がある、雪の降る棚田があるといった美の特徴が紹介された。

「棚田は何故美しいのか」

青柳健二氏

基  
調  
講  
演

# 棚田と文化的景観保全のあり方、取り組み

・コーディネーター：海老澤衷氏(早稲田大学文学学術院副学術院長)  
・サブコーディネーター：海津一郎氏(和歌山大学教育学部教授)  
・話題提供者：渡邊すみ子氏(娘捨棚田名月会)

矢島宏雄氏(千曲市教育委員会文化財センター所長)  
河野洋子氏(莊園の里推進委員会副委員長)  
藤重深雪氏(豊後高田市地域活力創造課長)  
西林輝昌氏(あらぎ島景観保全保存会)  
川口修実氏(有田川町教育委員会社会教育課学芸員)



## 水田の持続的かんがいが 文化的景観を保全

コーディネーター

海老澤  
衷

重要文化的景観という共通項を有する

行場(岩屋)

三地域、「娘捨の棚田」(長野県千曲市)・  
「あらぎ島および三田・清水の農山村景

ニーケ

観」(和歌山県有田川町)・「田染莊小崎の

な視点

農村景観」(大分県豊後高田市)からそ

場を有

れぞれ行政および地元で活動する二人の

し、現

方から報告をいただき、討論をおこなつ

し、現

た。

重要文化的景観は、森林や鉱山、水産業など、人の生業と生活にかかる特徴的な景観を含んでおり、きわめて幅広いものであるが、ここでは「水田景観」が中心となるという共通点があり、さらに数百年におよぶ長い歴史的・文化的背景を有するという特徴がある。

耕作者の高齢化など共通する問題はあるものの、それ全国的に見ても特徴のある取り組みがなされている。「娘捨の棚田」では、「田毎の月」・「更級」という日本文学の伝統を背景として名月会という保全団体がこの地域ならではの活動を開催し、「あらぎ島」では阿弓河荘という高校日本史教科書に登場する荘園の中にあって、しかも近代の自然災害による視点場の形成という特性を持ち、皇室との心あたたまる交流が続けられている。

「田染莊小崎」は、水田自体が斜度20%の1以下の緩斜面にあるが、山岳佛教の



## 棚田なのか考える機会に なぜ今、

参加者から  
なぜ今、

海老澤  
衷

長野県千曲市棚田保全推進会議副会長、田毎の月棚田保存同好会会長

関口幸男

まずは、今回のサミットを主管された有田川町実行委員会の皆様方に心から感謝を申し上げます。当千曲市では16年前の第3回全国棚田サミットを開催しておりますが、最近のサミットの規模の大きさには改めて感心します。それだけに準備された方々の御苦労が身にしみます。

今回の第1分科会では、全国各地の棚田が「重要文化的景観」に指定されているその各地の取り組みをテーマに意見交換がされました。海老澤衷コーディネーター、海津一郎サブコーディネーターの名進行のもと、和歌山県、大分県、長野県の各代表者による実践報告がなされ有意義な分科会となりました。

なぜ今棚田が見直されているのか、それは先人の汗によって作られ、食の基となっていた棚田を単に儲からないだけではなくて、多くの人が居ること、汗をかきながらそれを何とか復元しようとする人が居ること、そしてその結果が人々のストレスを解消するような景観となっている、この3要素が棚田を見直すことにつながっている図られるべきであることが確認された。

このように、重要な文化的景観の保全を迎えた頃、外は夕暮れを迎えた時の経つのも忘れていました。

棚田を守るとは、「棚田が好きだから、誰かが言つていました。

# 梯田(棚田・段々畑:条件不利地域における土地利用)の意義と保全

・コーディネーター：養父志乃夫氏(和歌山大学システム工学部教授)

・話題提供者：山口謙二氏(長崎県長与町 木場・大越地域活性化協議会)

山下憲穂氏(愛媛県宇和島市 遊子水荷浦 段畑を守ろう会)

生駒英夫氏(和歌山県有田川町 中山間田口集落)



第2分科会では「梯田」をテーマに取り上げた。「梯田」とは、中国での棚田や段々畑の総称である。全国棚田サミット第19回にしてはじめて、段々畑に向かっては、その価値をどう見出し、どう保全するのか。山々にみかん畑を抱えた急傾斜地にあり、見事な石垣の段々畑も多いなか、その価値をどう見出し、どう保全するのか。山々にみかん畑を抱えた和歌山県有田地方ならではの着眼点であったといえる。本分科会は、水田、畑といいう垣根を越え、厳しい条件を乗り越えてきた農地が持つ魅力や課題などを広く共有する場となつた。

みかん栽培を「ながさき型集落営農」で取り組む山口謙二氏からは、「収益性の高い農業への環境づくりが重要で、その結果、自然と後継者が戻ってくる。こうした魅力ある環境づくりが自分たちの役目」。また、重要文化的景観の遊子水荷浦でじやがいも栽培を行う山下憲穂氏からは、「オーナー制度などで農業体験に興味のある人を広く取り込むなど、農業にたずさわる人を増やしていくことが重要」と。そして、地元有田川町のみかん農家である生駒英夫氏からは、「これからは生産だけでなくプラスαのことをして、魅力ある農業をしていくことが大切」と話が出た。

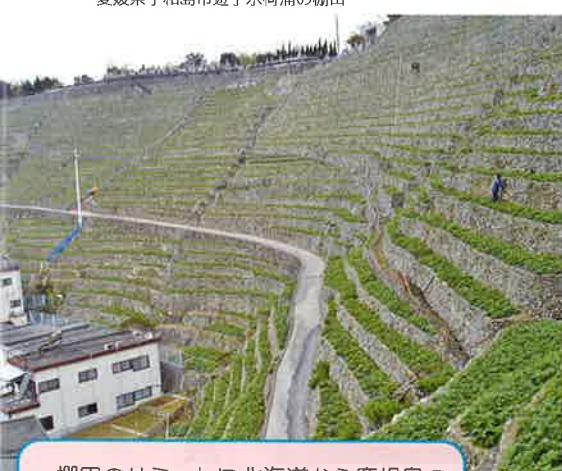
これらを受け、会場からは「農家の使命は、競争力を強化し、社会的責任とし

## 梯田は地域の暮らしを守る防災機能も

「コーディネーター  
養父志乃夫

て安心安全な農作物を提供すること。棚田を守らねばという気持ちはあるが、収益が現実と合わず、収益が上がれば若い人も農業に就いてくれる」という意見があつた。また、「自給自足を基本に考え、都市との共生を図り持続性を持たせたい」という声もあつた。

急峻な地形に耕作する「梯田」は、農作物の生産に加え、地域、流域の暮らしを守る防災機能を発揮している。棚田や段々畑を次代につなぐことは、里海をはじめ、下流集落や街を災害から守ることである。だからこそ、農家の高齢化や後継者不足で農地が維持できなくなる前に、ハード整備やソフト事業を駆使し先達の知恵と作法を継承する必要がある。第2分科会では最後にこの点を確認し終了した。



梯田のサミットに北海道から鹿児島の人まで集まってすごいと思いました。あらぎ島は、今回直に見るまで、魚眼レンズの写真だとばかり思っていましたが、そのままなんですね。素晴らしい。重要文化的景観の価値があります。同じ重要文化的景観でもうちはへんびなどころだから、なかなか人に来てもらうのはむずかしい。ですが、いい方法を考えていきたいですね。毎日毎日、地元では段畑をどうしようかと悩みがちですが、今回、大勢の人とのふれあいもあり、明るくなりました。朗らかな気分になって宇和島に帰ることができます。(会場談)



愛媛県宇和島市遊子水荷浦 段畑を守ろう会会長

山下憲穂さん

参加者から  
先人が残した文化的遺産をどう保全するか課題も

長崎県波佐見町

坂本健吾

第2分科会では3名の方が、課題を抱えながらも地域活性化の推進のため、創意工夫されている取り組みが報告されました。

その中で、特に関心があつたのは、国的重要文化的景観である愛媛県宇和島市の「遊子水荷浦の段畑」であります。

以前読んだ、藤田洋三著『世間遺産放浪記』という本で、この段畑を「用と美」を併せ持つ現役のイモ畑と紹介され、強い衝撃を受けました。30度の急傾斜地に開墾され、まるでピラミッドのようにそびえたつ段畑は、まさに人と自然がつくりあげたすばらしい景観であります。この景観を守るために、「段畑を守ろう会」を結成し、ばれいしょ芋のオーナー制度ほか、さまざまな活動を開催され地域の活性化を図られていますが、先人が残した文化的遺産をどう保全するか課題もあります。段畑景観に衝撃を受けた一人のファンとして、今後自分に何ができるか大いに考えさせられました。

参加者から  
先人が残した文化的遺産をどう保全するか課題も

長崎県波佐見町

坂本健吾

先人が残した文化

長崎県波佐見町

坂本健吾

先人が残した文化

# 棚田保全活動を 契機とする地域 活性化・地域づくり

- ・コーディネーター：福井 隆氏(東京農工大学大学院 客員教授)
- ・話題提供者：西口和雄氏(岡山県美作市 NPO法人英田上山棚田団理事)  
町田修一氏(埼玉県横瀬町寺坂棚田保存会)  
原 和男氏(和歌山県那智勝浦町 色川地域振興推進委員会会长)



棚田サミット分科会のテーマは、棚田を舞台にした地域づくりである。まず、分科会の最初にコーディネーターより、「先祖代々耕され豊かな恵みをもたらしてきました、棚田をはじめとする中山間地域集落の存続が難しい状況になっている」ことを問題意識として取り上げた。そして、その課題解決に向け棚田保全活動を契機にし、地域づくりにつながる事例を発表いただいた。岡山県上山集楽の、都市との交流によるさまざまな取り組み。

埼玉県秩父の寺坂、都市住民によるオーナー制度から発展した取り組み。そして、和歌山県那智勝浦町色川での、長い時間をかけおこなわれてきた、移住者と先住者の協働による取り組みである。

この中で、色川の原氏から「地域に人が移り住んで、人口が増えても地域は良くならない」という発言がとても示唆に富んでいた。原氏によると「棚田こそが地域の文化の象徴」であり、数百年かけて営まれて来た先祖代々の暮らしと知恵の積み重ねをここに見ることができ、それが地域らしさの象徴であると指摘された。このような「地域らしさ」を受け継いで、次の世代につなげていくことこそが大事であり、ただここに移り住んできた人が何をやっても良いというのと

今回チャンスを頂いたのはミネッチこと中島峰広先生から「カッチさんサミットで棚田団の活動を紹介してくれない?」といつもの気軽な感じでの有難いお声掛けから始まりました。

参加してみて、全国から集った棚田の維持保全管理をされていらっしゃる地元の方や自治体の熱き想いに感動いたしました。残念ながら美作市(岡山県)はまったくといっていいほど関与がなく上山棚田が招待されたにもかかわらず他人事で恥ずかしいばかりでした。地域が元気になるには住民と自治体が連携し協働しながら夢を描いていくことが日本には求められています。

今回、安倍昭恵夫人(英田上山棚田団はアッキーこと安倍昭恵総理夫人に名誉顧問になって頂いている)が参加してくださったことにより全国の棚田の活性化に少しでも自信と勇気をもってより豊かな地域力を育んでいかなければいけません！ 地元で開催することがどれほど大変でどれほど意義があるのかということを自分で見られたことが最幸でした！ サミットにてご縁を頂戴した皆様に心からお礼を申し上げます。

また今年も山形県上山にてお逢い致しませう！！



安倍昭恵総理夫人参加だけでなく、夫人とのご縁で、ロックフェラー財団会長ロックフェラーご夫妻が、英田上山棚田団のメンバーに会いに棚田サミット会場へ入り乱入!? 棚田の視察とともに鯖寿司も堪能されました

棚田サミット分科会のテーマは、棚田を舞台にした地域づくりである。まず、分科会の最初にコーディネーターより、「先祖代々耕され豊かな恵みをもたらしてきました、棚田をはじめとする中山間地域集落の存続が難しい状況になっている」ことを問題意識として取り上げた。そして、その課題解決に向け棚田保全活動を契機にし、地域づくりにつながる事例を発表いただいた。岡山県上山集樂の、都市との交流によるさまざまな取り組み。

埼玉県秩父の寺坂、都市住民によるオーナー制度から発展した取り組み。そして、和歌山県那智勝浦町色川での、長い時間をかけおこなわれてきた、移住者と先住者の協働による取り組みである。

「コーディネーター 福井 隆  
は違う、という指摘であった。  
まさに、今問われていることは、これまで風土に寄り添い生きて来た日本人の暮らしの知恵や営みが風前の灯になつてゐるということである。そして、それらをどうすれば次の世代につなげていくことができるのか。それこそが重要な課題であり、そのためには地域の文化を受け継ぎながら、新しい暮らしにとっての「価値」を地域に上乗せしていくことが重要であろう。棚田を舞台に、貨幣や交流価値を創出するだけではなく、地域と地域に住む自分が思う以上に、棚田とそこで作られる米、野菜、蔓にいたるまで、特別な価値を生み出せる。その価値に辿り着くには、『食』だけではなく、『文化』『福祉』『教育』『遊び』などなど、あらゆる面からアプローチが必要だと思いました。

そして、一番大切なのは、『人と人との結びつき』だと思います。『暮らしして?』と考える人は増えていて、棚田の中(人)で『自分の暮らし』を見つける人が多くなれば、棚田の価値は無限大です。

## 新しい「価値」を上乗せして

参加者から  
**棚田の価値は無限大**

山口県長門市農林課 原田 敏成

棚田は、そもそもは『食』のためのものだった。農業の効率面から、荒れ地が増えて……。もう一度、棚田を生活のど真ん中にできたら……。

第3分科会に参加し、情熱とアイデア溢れる話題提供者の報告に、不便な『棚田』だからこそ、可能性をもつていていうことを教えられた気がします。棚田地域に住む自分が思う以上に、棚田とそこ

で作られる米、野菜、蔓にいたるまで、特別な価値を生み出せる。その価値に辿り着くには、『食』だけではなく、『文化』『福祉』『教育』『遊び』などなど、あらゆる面からアプローチが必要だと思いました。そして、一番大切なのは、『人と人との結びつき』だと思います。『暮らしして?』と考える人は増えていて、棚田の中(人)で『自分の暮らし』を見つける人が多くなれば、棚田の価値は無限大です。

一般社団法人上山集樂 代表理事

NPO英田上山棚田団 理事

西口和雄さん

# 学生ボランティアと 地域による棚田 保全への取組

・コーディネーター：大浦由美氏(和歌山大学観光学部准教授)  
 ・話題提供者：石田三示氏(千葉県鴨川市 大山千枚田保存会)  
 山重哲也氏(わかもの農援隊 中央大学法学部)  
 高橋周蔵氏(静岡県松崎町 石部赤根田百笑の里)  
 露木みのり氏(富士常葉大学社会環境学部)  
 松田壽夫氏(和歌山県有田川町 沼の農業をまもる会)  
 田中直視氏(「棚田ふあむ」 和歌山大学観光学部)



## 農村に向かう 若者たちの可能性

コーディネーター

**大浦由美**

第4分科会では、棚田保全活動の中で  
も、近年増加しつつある「学生ボランティア」と地域との協働に焦点をあて、そ  
のより良い関係づくりについて、受入側・学生側の双方からの事例報告と討論  
を行いました。

静岡県松崎町「石部の棚田」の取組か  
らは、美しく蘇った約1.7haの棚田を舞台  
に、オーナー制度を中心とする確かな交  
流が育っている一方で、地元住民の高齢化  
により農作業が困難になりつつあり、  
その点で、富士常葉大学の学生による畦  
切り、畦塗りなど、労力の必要な作業へ  
の継続的な支援が大いに役立っているこ  
とが報告されました。

次に、千葉県鴨川市「大山千枚田」の  
事例からは、多彩な活動の中から特に関  
東圏10大学の学生による「棚田環境大  
学」の取組が報告されました。「どろん  
こバレー大会」という「楽しみ」を入口  
に、棚田や農業へと若者を誘うユニーク  
な仕組みです。各大学の代表者で構成さ  
れる実行委員会の自主運営で毎年100  
名ほどの参加者を集めしており、こうした  
大学生の「力」を地元側も高く評価して  
いるとのことでした。

そして地元有田川町「沼の棚田」から  
は、和歌山大学観光学部「棚田ふあむ」  
との交流について報告がありました。活

動開始からまだ3年目という若い取組で  
すが、学生の受入をきっかけに地元住民  
同士の交流の機会が増加し、着実に地域  
の活性化につながっていること、また学  
生が作成する活動日誌の全戸配布が、地  
域の中での理解と支援の輪を広げている  
ことが報告されました。

以上の報告と討論から、受入側にとっ  
ては、学生ボランティアの活動が、たと  
え年に数回でも、地域のニーズとのマッ  
チング次第で担い手として頼りになる存  
在になり得ること、また、棚田や農業に  
関心を持つ若者層の拡大という観点から  
は、入学・卒業によりメンバーが毎年入  
れ替わることもメリットと考えられるこ  
と、そして学生側からは、保全活動のや  
りがいや地元住民との交流、さらに学生  
同士の交流も深められることへの魅力等  
の相乗効果で、仲間と受入地域に強い愛  
着を持つようになり、そういう中から実  
際には地域おこし協力隊員として現場に入  
つたり、OBも活動を続けられる仕組み  
を具体化する動きが出ていることなどが  
明らかになりました。

きっかけも道のりも様々ですが、地域  
での実践を通じて、多くの若者たちが確  
実に農村に目を向けつつあることに大き  
な可能性を感じる機会となりました。

**参加者から 学生が取り組み  
やすい仕組みづくりを**

佐賀県玄海町産業振興課 寺田圭一朗

第4分科会に参加し各地域の発表を聞  
いて、若者の代表である「学生」と連携  
した活動が地域の人々に与える影響の大  
きさを実感することが出来た。私自身、  
年齢が学生と変わらないということもあ  
って、感心すると同時に、楽しそうに活  
動する学生をうらやましいと思った。

TPPの問題や米の減反廃止が検討さ  
れている今、いかに棚田の保全を図つて  
いくか。今後日本の農業は依然厳しい状  
況におかれるとと思うが、逆に学生の意識  
は農山村や農業に向きやすくなつたよう  
に感じる。実際に農村へのサポート活動  
を積極的に行つている大学が多くなつて  
いるとのことで、農業に挑戦するハード  
ルも低くなつていて。この気運を受け、  
行政という立場からでも学生が取り組み  
やすい仕組みづくりを検討し、実践して  
いくことで人々に活力を与え、地域を盛  
り上げていきたい。

**参考書から 地域の特色や努力  
が活かされる制度設計を要望**

島根県奥出雲町長 井上勝博

首長会議では、各自治体での棚田を活  
用した取り組みや現状・課題について情  
報交換を行い、棚田米の販売、棚田オーナ  
ー制度、体験ツアー等の都市農村交流、ふ  
るさと納税による棚田基金創設や地域お

# 長議 首会

## 「中山間地域の持続的保全に向けた支援の充実」をテーマに 全国15自治体の首長らが論議

「一」ディネーター 千賀裕太郎

(東京農大大学名誉教授 棚田学会会長)

首長会議は、全国15の自治体の首長（本人出席8名）等が出席して、「中山間地域の持続的保全に向けた支援の充実」をテーマに、活発な論議が行なわれた。

討論では、放置竹林の対策として竹材をチップ化して有機堆肥にするなど、地域資源を活用した「6次産業化」を進めている事例、「ふるさと納税」の対象メニューに「棚田保全」を加え、納税「特典」として棚田米などの「地元ふるさと产品」を送るなどで好評を得ている事例などが、複数の自治体から報告があり、質疑が行なわれた。

鳥獣害の深刻化については、柵やネット設置等の「ハード」な対策だけでは不十分で、鳥獣の餌となる収穫残余物や生ゴミの処理、農業普及員の指導による高齢者でも安全に作業できる作物の仕立て方の工夫など、被害軽減に集落ぐるみで多面的に取り組む必要があるとの論議があつた。

また、農作業体験や用水路管理作業などへ学生等ボランティアの参加を得ることにより、棚田保全活動が支えられているとの報告が参加者から相次いだ。

棚田保全の法制度面での充実について

は、棚田地域の「多面的価値」への国民的認知が広がっており、将来にわたって地域住民、「担い手」や棚田オーナー、ボランティア等による「棚田保全組織」を支援する施策が必要であり、「農地・水保全管理支払い交付金」の、条件不利地域に対する加算措置などを提案することが必要とされた。

さらに現在検討中の「日本型直接支払制度」の中では、中山間直接支払及び環境保全型については、基本的な枠組みを維持しながら継続していく、「農地・水」については基礎的な活動と集落機能を強化する活動で重複部がないよう見直していくと、丁寧な説明があつた。

こし協力隊による農地保全など各地の紹介があつた。高齢化、担い手不足、有害鳥獣被害、竹林の拡大防止など共通する課題があげられ、今後、棚田地域を守っていくための支援策について意見交換があつた。

今回の会議では、これまでの戸別所得補償（経営所得安定対策）の10aあたり1万5千円の補助金によって、米作付の均等割の配分方針から、平野部で米作付配分が増え、山間部で転作面積が増えるといった現象が起き、良質米産地には弊害があつたことを説明した。

今、減反政策の見直し、定額補助金の減額が打ち出され、これらの財源で「日本型直接支払い」が検討されているが、棚田をもつ中山間地域には良質米産地も多くあり、それぞれの地域の特色や努力が活かされる制度設計をしてほしいと要望した。都市での生活は田舎があるからこそであり、田舎を大切に守っていくことがこれから日本の日本にとって必要であることを、国民全体が理解し共有していくことが求められる。

# 棚田保存会意見交換会 参加者 から

## 棚田地域交流会は、継続してほしい

岐阜県 NPO法人恵那市坂折棚田保存会 田口 譲

私共の坂折棚田保存会では22名が参加しました。交流検討会は、サミットとして初めての企画であつて、交流会に期待して参加しました。けれども検討会の時間がなく、各保存会の現状発表で終わってしまいました。今後改善をすべきだと思います。次年度からのあり方について、参加した一員として、一つの提案をしたいと思います。

何といっても、限られた時間で、悩みを解決した事例、各保存会がかかえている課題を知り、そのことについて各保存会から意見を述べる。その後、各組織からの質問や意見を出し、話し合いをして共通事項をまとめ、各方面に提言することにすべきです。その時間を多くするには、事前に現状と今後の課題について担当事務局でまとめて置き、交流会参加者に知らせるよう配慮していただきたい。

できれば交流検討会のテーマを決め、事前に各組織からの意見および質問をだしてもらい、交流検討会時には、各組織の現状と問題を知り、各組織が発表する時間を無くして、直ぐ検討会に入ることによって、時間を有効に利用することが可能となると考えます。棚田地域交流会は、将来にわたって継続してほしいと思います。

## 一堂に会し、意見を交換し合う機会は大変貴重

埼玉県横瀬町振興課 浅見 聰

日本全国の棚田保存活動をされている方々の熱意には正直驚かされました。そういう方々が一堂に会し、意見を交換し合う機会は大変貴重です。私も含め、最初は発表に戸惑っていた参加者でしたが、次第に普段から抱える悩み等を熱く語り出しました。皆で意見を出し合いううちに、課題や悩み等に対して良い意見が次第に出始めましたが、時間切れとなってしまったことは大変残念でした。この意見交換会を充実したものにするには、休憩を間に入れて3~4時間は必要ではないでしょうか。また、意見交換会の最終的なまとめに対するイメージが少し明確でなかった気もいたします。

しかしながら、会に対する考え方は大変素晴らしいと思います。今後も、この意見交換会がより充実したものとなるよう期待いたします。

## 明日の展望が見いだされた有意義な会

愛知県新城市 鞍掛山麓千枚田保存会 小山舜二

今年の全国棚田サミットは、「棚田保存会意見交換会」が試行されたことで、われわれ百姓が、自由闊達に意見交換ができ、明日の展望が見いだされた有意義な会であった。

われわれ百姓は棚田の保全継承、過疎、高齢化など多くの悩みを抱え、苦慮している。その打開策をもって毎年、全国棚田サミットに参加している。前回のサミットでも、全国から参集した百姓のそれぞれの悩み、課題等を主眼とした提議、話題の場を作つてほしいと生意気にも主張し、今回の試行に期待して参加した。また、これを一助とし、第20回目となる山形県上山市開催の企画に託したい。

有田川町の実行委員会、住民の皆さん、協賛、後援の皆さんとの温かいおもてなしにお礼申し上げます。

11月9日、全国棚田サミット

静岡県東部農林事務所

農村整備課 農村計画班長 土屋和大

## 「いらっしゃい」の声が響いて



有田中央高校の女子生徒と  
スリーショットの筆者

あらぎ島でも「ムカゴめし」とお茶と元気を頂きました。写真右は、「スナックまちこの」まちさんへ♪



記念にとあらぎ島の花火大会とキャンドルナイトイルミネーションの写真を頂きました



あらぎ島に立つ巨大案山子

あらぎ島でも「ムカゴめし」とお茶と元気を頂きました。写真右は、「スナックまちこの」まちさんへ♪  
そして、ゆるやかな坂を上り、重要文化的景観「あらぎ島」の見える展望台へ。いろいろ見る角度から、「あらぎ島」や「有田川」の流れが美しいです。  
夏には花火、冬には雪も積もり、春の水張りの季節に変わると、「あらぎ島」の景観に、また、訪

は、楽しみにしていた「現地見学会」。僕たち静岡県から参加者は、文化庁の重要な文化的景観にも指定をされている「あらぎ島」と上湯用水路コースを選択。「コースは、有名な「あらぎ島」だけでなく、美しく保たれた水田や集落、道や小川が美しく……、至る所に、地元の方々や地元小中高校、和歌山大学のボランティアの皆さんとの温かいおもてなしと「いらっしゃい」の声が響く「ウォーキングとなりました。

「あらぎ島」近くの「三田団」さんのおもてなしでは、芭蕉の葉っぱでつまれたキレいで美味しい鰯の押し寿司、地域にある特色ある糸を使ってるんですね！

そして、「あらぎ島」の見える展望台へ。いろいろ見る角度から、「あらぎ島」や「有田川」の流れが美しいです。  
夏には花火、冬には雪も積もり、春の水張りの季節に変わると、「あらぎ島」の景観に、また、訪

れてみたりました。灯籠つけた「あらぎ島」も神秘的です。

秋に色づく清水地区の農村風景の中、近隣住民の方のお見送りも温かく、静岡県松崎町「石部の棚田」サミットでも、石部のおばあちゃんが見送りしたのを思い出しました。

懐かしいところ、温かみが次回サミットに受け継がれるといですね！ 「あらぎ島」の棚田へ向かう途中では、閉会式時に「棚田宣言」を読みあげていたいた景観保存会の畠中さん、「家族が棚田米を力ワイク…売っています」「あらぎ島」は平たく見えますが、段丘的な落差があります、細かなところまで美しい石積みが積まれていて、おもてなし会場では、大きな力ワイカシしがお出迎えしてくれました。

そして、おもてなし会場には、「このサミットで知り合った方も多い数いらっしゃって、親しみのあるおもてなしになりました！」

昨夜伺った「スナックまちこの」「まちこさん」が、昼間の世界にいました…(笑)

ここでのおもてなしは、「むか」「めし」…彩りも秋らしく、美味しいかったです。

上湯用水路沿いにも、見送りの人たちがいっぱい出ていてくれました。

お見送りの方々と参加者の交流も、いつも秋らしく、美味しいかったです。

そして、約2時間くらい歩き、閉会式会場の清水ドームに到着。天気も良く、美しい棚田景観の中を、温かい棚田に觸れる皆さんのおもてなしを受け、素晴らしい雰囲気を満喫することができました。有田川のみなさんありがとうございました。

たつ！



あらぎ島の棚田の少し手前で家族で出迎えてくれた景観保存会の畠中さんへ♪

記念にとあらぎ島の花火大会とキャンドルナイトイルミネーションの写真を頂きました

そして、ゆるやかな坂を上り、重要文化的景観「あらぎ島」の見える展望台へ。いろいろ見る角度から、「あらぎ島」や「有田川」の流れが美しいです。  
夏には花火、冬には雪も積もり、春の水張りの季節に変わると、「あらぎ島」の景観に、また、訪

り、お見送りの方々と参加者の交流も、いつも秋らしく、美味しいかったです。

そして、約2時間くらい歩き、閉会式会場の清水ドームに到着。天気も良く、美しい棚田景観の中を、温かい棚田に触れる皆さんのおもてなしを受け、素晴らしい雰囲気を満喫することができました。有田川のみなさんありがとうございました。

たつ！

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い小さな田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

田圃の「写真を撮りながら歩いていくと、あつという間に帰りのバスの待つ場所に着きました。バスで下る間に、所々に幅の狭い田圃が多いのに驚きました。

たつ！



棚田を歩く



古民家を利用しての歓迎



地元との交流

## 沼の棚田を歩いて

千葉県大山千枚田オーナー  
(個人正会員)

向笠功一

小さなバスに乗

り換えて谷のような川

沿いの道をそれると急な登り坂です。

本当に田圃があるのだろ？かと思える程山は急で、坂道を登つて行くと棚田が見え始めました。

目的地に着くと案内の方たちが歓迎の

お出迎えです。和歌山大学農山村再生ゼ

ミナルの田口さんをはじめとする案内

の方たちとゆっくり話しながら坂を登つ

ていくと古民家で休憩です。ここは棚田

紹介の基地になつてしゆうよつです。

軒先に大きな、なた豆が干してあり、案

内の方たちにより我々見学者にそば茶を

ふるまつて頂き、古民家の庭先で話が弾

みました。

また歩き始めるときのため作られた展望台から棚田を見下ろしました。見ると元田圃であつたと「じゆが山椒などの木の畑となつていて、「じゆが山椒など」とあります。さらに進むと地元の方たちによる蜜柑やお餅のものでなしがありました。

途中、道に面した民家の前に来るとおばさんが待つて見学する我々に丁寧に挨拶していました。

さらに進むと向こう側の斜面に今でも稻作をしている棚田が斜面にあるのが見えました。和歌山の本当に急な山に幅の狭い小さな田圃が多いのに驚きました。

たつ！

# 温暖な斜面に民家が点在する 三田の棚田

東北芸術工科大学 共創デザイン室 遠藤牧人



蔵王神社でおもてなしを受ける

みかん畑の続く道をバスに揺られ三田に着く。地元の人たちが芭蕉で包んだサバの押し寿司を振る舞つてくれた。芭蕉の香りとサバの味が棚田米にしつかりし込み、じつに美味しい。

路上で出迎える方々と轍に導かれ、一行は誰に先導されるともなく棚田の中を登つて行つた。石垣積みの棚田には民家が点在し、道は急勾配ながら舗装され、車も楽に通れる。各戸の庭にはかりんの実や椿の花が……稻刈り後とはいえ三田の棚田はまだまだ賑やかだ。案内していく男性が、「汲いかもしれないけど……」といながら、竹棒の先を加工した簡素は

道具で器用に柿をもいでくれた。じつに甘くて美味しいかった。

私の暮らす山形では、農家はたいがい棚田の麓に寄りそつて暮らし、11月には雪に備える。深い雪は棚田に人を寄せつけないが、温暖な三田では冬の棚田活用も多々考えられよう。

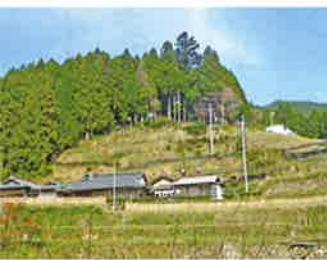
棚田の天辺には蔵王神社があり、私たちは地元の方々からお札を戴き、「ここでも押し寿司の振る舞いを受けた。神社から見下ろす棚田は暖かい秋の陽を浴び、柔らかな曲線を描いていた。有田川の対岸には有名なあらぎ島の棚田も見える。

帰路は展望台からあらぎ島を見下ろした。「三日月湖を思わせるほど曲がった川」に囲まれたこの棚田は、未広がりで一度見たら忘れられない。次回はぜひ下まで下りて歩いてみたい。

地元の方々の心温まるおもてなしに感謝しつつ、できれば耕作している農家の解説をお聞きする時間が欲しかった。



棚田を登る道は車でも安心



棚田は蔵王神社に見守られている



蔵王神社からの眺望。すぐ下まで民家が…



民家の庭先にはかりんの木

11月9日、晴天の下、現地見学に向けてバスが出発した。コースは3つ。「沼の棚田コース」、「三田をメインにあらぎ島も見下ろす「あらぎ島と三田の棚田コース」、「あらぎ島と上湯用水路コース」である。参加者から感想レポートを写真とともににお寄せいただいた。

## 現地見学会



家の増築された年代によるパッチワークのような瓦屋根や異なるデザインの棟瓦から、先祖代々受け継がれてきた暮らしが目に浮かび、時を越えた棚田の風景を見ることができました。



北海道札幌市  
から参加!  
女性建築士

児玉恵美さん

ちょうど眼下に蘭島を見下ろす山腹にあるのが、今回歩いた三田の棚田です。三田の棚田の最上部に祀られている三田蔵王神社からは、本年、重要文化的景観に選定された「蘭島及び清水・三田の農山村景観」を一望することができます。

三田の棚田についても、江戸時代初期のおよそ350年前、あらぎ島を拓いた大庄屋 笠松左太夫が山林中腹の急斜面を這わせるように用水を整備したのが始まりだそうです。明治初期には水田面積14haであったものが、今では水田面積3ha、集落の人口は112人、大半は60歳以上となっているとのこと。とはいっても、30代のご夫婦数カップル&お子様たちもいらっしゃるそう。

鳥獣害防止のため水田の周りには電柵が張り巡らされていますが、蔵王神社にてご案内くださったおじさまから「イノシシはぐぐるし、シカは飛び越えるので、防ぐのは容易でないとお教えいただきました。全国の他の棚田地域と同じく、習俗の保全や農林業の後継者不足などが地域課題となっているとのことでした。

今回、北海道から女子(?)2名で参加させていただきました。おもてなしをくださった地域の皆様、本当にありがとうございました。

北海道小樽市から参加 新人棚田学会員 長さやかさん



## 和大「棚田ふあむ」と 一緒に区民総出でした

沼区長 中川雅弘

サミットで沼の棚田に来て頂けた参加者の皆さん、本当にありがとうございました。地域で伝統の青海苔入りの餅は如何でしたか？ 里芋を入れて、柔らかく保つ予定でしたが、「思いのほか、堅くなってしまった」と、うちの女性たちが申しておりました。

沼では、和大生ボランティア「棚田ふあむ」の皆さんと共に区民総出で、おもてなしをさせて頂きました。学生が当地域に入つて平成25年で3年目、若い子が入つてくれることで、当地区も活気を取り戻し、若返った様に感じています。

棚田サミットは、たつた2日間のイベントでしたが、これを機に今後も孫のような学生の皆さんとの交流をさらに深め、区民共々棚田を守り、地域の活性化に取り組んでいきたいと思います。

平成25年10月、あらぎ島と共に、三田地域の農村景観が「国的重要文化的景観」に選定され、棚田サミットを機

当日は祭り気分で、区民が一丸となつた対応が出来、高齢等でおもてなしに参加できなかつた家庭にも寿司を配り、絆が一層深まり喜んでいるところです。

三田地区では、伝承料理である芭蕉の葉で巻いた押し寿司と番茶、コース内で気軽に声をかけて対話することなどで、おもてなしをさせて頂きました。参加者の皆様からは「地域の皆さんとお話をできてうれしかつた」、「押し寿司美味しいしかつた」、「蔵王神社のしおりを頂いてサミット参加記念になつてうれしい」、また、私たちにも「ご苦労様」と多くのうれしい声を頂きました。

会に地域の活性化に取り組もうという意識も芽生え始めてきています。

三田区長 坂本頼宣

参加者  
から

## 地域の絆も深まつて

会に地域の活性化に取り組もうという意識も芽生え始めてきています。



芭蕉の葉で巻いた寿司を見学会場に展示



個人賛助会員  
堀田恭子さん



棚田サミットの魅力は「食」と「景色」、そこからみえる人々の「暮らし」です。今年の「食」は懇親会でのマグロ解体ショー、梅干しあかね、葉っぱでまいあすし(左写真)に圧倒されました！

「景色」はといえば、もちろん扇形の棚田です。見学会はなぜかお散歩会となり、なかなか「暮らし」を聞き取ることはできませんでしたが、途中、地元の高校生に水路の説明をしてもらいました。農とは遠い暮らしをしている私にとって、見学会での地元の方の説明は、いつ聞いても新鮮です。そんな私を受け入れてくれる棚田サミットの懐の深さにいつも感謝しています。もう少し見学会での地元の方の「語り」が聞きたいなあと思ってしまいます。ぜいたくなかな……。



和歌山大学観光学部「棚田ふあむ」  
田口貴浩さん

私は、地元の沼の棚田で活動する和歌山大学観光学部「棚田ふあむ」の一員としてサミットに参加しました。サミットでは棚田保全の先輩方にたくさんのお話を聞かせていただきましたので、私自身はとても刺激を受けることができました。

みなさまに見ていただいた棚田のように、有田川町には全国にアピールできる風景や資源がたくさんあります。ほかの地域から来ていただいた方はもちろん、地元の方にとっても、そのことを気付かなあしてもらえるとても素晴らしい機会になったと思います。

「棚田ふあむ」の活動は3年目でまだ始まったばかりですが、これからも沼の方々と二人三脚で息の長い活動を続けていきたいと思います。



和歌山大学観光学部「棚田ふあむ」  
田口貴浩さん



鹿児島県薩摩川内市 日本棚田百選内之尾棚田 藤井道博さん  
(写真右から7番目。写真は、かごしま棚田連絡協議会のみなさん。14名で参加)

私は、宮崎県の坂元棚田のサミットから参加させていただいているのですが、何処の町も美しく、県内全員で協力し棚田を守っておられる様子が伺えます。今回の和歌山県の蘭島棚田は、国的重要文化的景観に選定され「良かった」と思うとともに、高齢化が進み、過疎になりつつある今、美的景観を守りながら、採算が取れる米づくりに努力をされていらっしゃる様子に感銘いたしました。

また、参加した第3分科会では、福井隆氏の司会進行のうまさに感心し、西口和雄氏の白米60kgを17万5千円で売れる銘柄づくり、原和男氏の、離農家から不要になった農機具をもらったり安く譲り受け、1ターンの人たちに貸し出すといった素晴らしい活動の話を聞きました。うらやましい話を次から次へと聞き、自分の棚田にもあんな素晴らしい指導者がいたらと思うほどでした。いろいろ、たくさんのおもてなしをありがとうございました。私は74歳、まだまだ頑張るつもりです。

# いで湯のまち 山形県上山市へ「きてけ、つゝしゃーい」

第20回全国棚田(千枚田)サミット開催地・山形県上山市 農林課

長橋 康夫

和歌山を過ぎ有田川町に近づくにつれて、特急くろしおの車窓から等高線状に峰まで連なるみかんの段々畑に圧倒された。まちなかも橙に色づいたわに実ったみかんの畑と共に生している特徴的な風景。どの会場でも箱ごと置かれたとても甘い有田みかんを十分に満喫。「みかんの町」を実感することができた。

そして、重要な文化的景観に選定された蘭島に感嘆。その稀有な地形は見る人を惹き付ける不思議な魅力がある。そのシンボルたる風景を目にしてだけで、行政と地域とがその普遍の価値について共有し大切にしていることが直感的に伝わった。

さて、第20回全国棚田(千枚田)サミットを10月23日、

2014年開催地の山形県上山市や朝日町他山形県内の皆さん。右から6人目、上山市長(中央)の右隣りが志藤さん

山形県朝日町 梶平棚田保全会  
志藤勝幸さん

参加者  
から

楳平棚田保全会の活動が始まり10年が経過しました。そのあいだ様々な事業を行ってまいりました。

今回サミットで各地の事例に触ることができ、また、全国の棚田関係者との交流をして、大きな収穫を得ることができ、楳平の取り組みのあり方も考えさせられました。

日本の米政策が変わることの時期、棚田、また、中山間の米作りは大きな不安をかかえております。地域に合った米作り、そして、地域づくりが早急に望まれています。全国の棚田の皆様の様々な取り組みの発展を期待します。

第20回棚田サミットが、山形の上山市を会場に開催されます。山形から、楳平からの取り組みが全国に発信され、少しでも参考になれば幸いと、準備を進めていきたいと思っています。

5年前、山形県では、「やまがたの棚田20選」を認定しました。それらの棚田は、急峻な地形に形成された曲線的なものではなく、緩やかな傾斜地に矩形に整理統合されたものが多く、山形県の中山間地域での典型的な水田の形を見ることができます。

全国から多くの皆様にみちのく東北にお越しいただき、西日本と異なる棚田風景、豊かな温泉に浸り、旬のごつをお堪能してほしいと考えています。

今回のサミット開催地である有田川町は、紀州和歌山を代表する有田みかんや、日本一の生産量を誇る山椒の産地でもあります。サミット会場での有田みかんのおもてなしは、産地ならではの計らいで、参加者の皆様も大変喜んでおりました。

また、「蘭島及び三田・清水の農村景観」は奇しくもサミット開催年に重要な文化的景観に選定されおり、その歴史と文化に触れることができたことは、非常に意義深

24日に開催する山形県上山市は、秀峰蔵王の麓にある室町時代に開湯した東北屈指の歴史ある温泉町です。まちの中心に復元した三層の上山城天守閣、目抜き通りの町屋造りの商家や古い土蔵は、羽州街道の宿場の名残をとどめています。果樹王国山形の代表的な産地で、さくらんぼ、ぶどう、ラ・ブランス、柿と四季を通して楽しめます。

歌山県有田川町において第19回全国棚田(千枚田)サミットが開催されました。11月8日~9日の2日間、和

「人、まち、棚田とともに未来へ伝えよう—守る心、受け継ぐ—豊かな恵み」をテーマとして、11月9日~10日の2日間、和歌山県有田川町において第19回全国棚田(千枚田)サミットが開催されました。

## 事務局ニュース

事務局、熊本県山都町からのお知らせコーナーです。

いものであつたと思います。

11月8日には、有田川町吉備中学校体育館において、800人を超える人が集い、開会式、基調講演、事例発表があり、その後の分科会では、文化的景観の保全、梯田の意義と保全、棚田保全活動と地域づくり、学生ボランティアと地域による棚田保全などをテーマに活発な議論が交わされました。また、夜の全体交流会では、地元産品を使った料理が提供され大マグロの解体ショーでは人集りができるほどの大盛況となりました。地場産品の抽選会もあり、参加された方々は地元の料理に舌鼓を打ちながら、棚田談義に花を咲かせた。中山町長をはじめ有田川町実行委員会の皆様、棚田地域の関係者の皆様、国、県の関係者の皆様方のご尽力、ご支援の賜物であり、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

11月9日には、重要な文化的景観地域に指定された「あらぎ島」や急峻な「沼の棚田」の現地見学会が開催され、地域の方々が我々参加者を温かく迎えて頂きました。

本当にありがとうございました。なお、サミットに先立ち開催された全国棚田(千枚田)連絡協議会総会において、平成28年の第22回全国棚田(千枚田)サミットの開催地として、新潟県佐渡市が承認されました。開催地選定委員の皆様のご尽力に厚く御礼申し上げます。

次回の第20回全国棚田(千枚田)サミットは、平成26年10月23日から24日の2日間の日程で「未來へつなごう実りの大地」を開催されます。会員の皆様の今年以上のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

# 自然エネルギー自給率100%を目指す「環境モデル都市」

町の目抜きどおりの国道440号。国道昇格を機に拡張され、電線も地下に埋め、白壁の建築に補助を出すなど、環境モデル都市らしいメインストリートへと変貌させた。小水力発電で灯る街灯は、白熱灯を使用し淡い光に



国道440号から一本中に入った役場前にも街灯が建つ。ちなみに町中心の標高は410m



標高1300mの四国カルストに建つ梼原町風力発電所。12月で-3℃だった。平均風速7.2m。年間平均発電量2900MWh。売電単価11.5円/kW。四国カルストには40基増設が可能という。梼原町では建て替えも含めて増設も検討中

4年、全国に先駆けて棚田オーナー制度を開始した町である。そして1995年、第1回全国棚田（千枚田）サミットを開催し、「棚田保全・活用」の先陣を切つてきた。それから約20年。20年前、約50000人だった町民は約37000人となつた。とはいっても、梼原町は自然エネルギーに積極的に取り組む「環境モデル都市」(\*1)として、その名をより一層全國にとどろかせている。

梼原町、矢野富夫町長は言う。

「2050年までに自然エネルギー自給率を100%にします」

**風・森・水・光・土……  
地域資源を生かす**

梼原町は9割以上が山林だ。その山々に降つた雨は、町の中 心部を流れる梼原川へと流れ込

み、その後、日本一の清流四万十川となる。梼原町は、現代の環境技術を積極的に取り込むことでこの地の大きな自然をエネルギーの宝庫に転換させてきた。風、森、水、太陽、土……。

町を構成するあふれんばかりの自然が、次なる町の未来を後押しする。

今、梼原町では風力発電所や小水力発電所も稼働し、太陽光利用も進み、西日本一の生産量を誇る木質ペレット工場も建つ。さらに地熱利用の温水プール(\*2)もある。そのほか、廃油の活用(\*3)をはじめ、環境に配慮したモデル住宅(\*4)など、まさに自然エネルギー施設や環境技術がそろう町なのだ。

ちなみに、町全体の電気使用量は、約1万8700MWh／年平成24年度。そして町の、風力・小水力・太陽光といつた自然エネルギーによる発電量は約5200MWh。つまり、自然エネルギーの自給率は約28%だ。これを100%にしていく、といふ。

「ここの人々は昔から『自分のことは自分で』といふ精神があるんですよ」と矢野町長。

「エネルギーも自分たちで」という思いの根底に横たわるのは、この梼原の精神だ。そしてまた、

み、その後、日本一の清流四万十川となる。梼原町は、現代の環境技術を積極的に取り込むことでこの地の大きな自然をエネルギーの宝庫に転換させてきた。風、森、水、太陽、土……。

梼原の人は「言つたことは必ず実現させる」という。有言実行の精神が地域社会に脈々と流れ続け、この地を前進させている。

## 風の力 風力発電で基金創設

町の政策を自然エネルギーに大きくシフト転換させたのは、風力発電機の建設だったといえ大規模な風車2基が標高1300mの四国カルストにそびえ立つた。そしてこれが、年3500万円の売電益を町にもたらしたのである(売電料356円／年＝収益1620万円／年)。

「自然」から得られた利益は、自然に還元させ循環させようとして、町は「環境基金」(\*5)を創設。木質ペレットを作るために必要な森林間伐の搬出補助や太陽光発電の家庭導入への補助に使い、環境推進の町づくりに拍車をかけてきたのである。

## 森の力 木質ペレット工場

かねてから間伐材を使つたバ イオマスに取り組んできた梼原町。山を守ることが地域の安全や林業の活性化にもつながる。

森林利用は大きな課題だ。

2008(平成20)年4月、第3セクターによる巨大な木質ペレット製造工場が稼働はじめた。間伐材を破碎し固形燃料のペレットに圧縮成形していく。

木材は、1トン4000円で工場に買い取られるうえ、間伐の際の搬出費用として、2400円／m<sup>3</sup>が環境基金から助成される。森林を守りながら、木質ペレットの生産を促す仕組みが構築されている。それが、年1700トンを誇るペレットの生産へとつながっている。

ペレットは、町内の学校のほか、一般家庭でもペレットストーブとして人々を暖め、また、公共施設では冷暖房のエネルギー源ともなつてきた。最近では、農業用ハウスのボイラーや、ペレット利用が進みはじめている。

森林利用は大きな課題だ。

## 水の力 小水力で灯す街灯

役場前から町の目抜き通りである国道440号線に建つ82基の街路灯が、今や「環境モデル都市梼原町」の新しい顔となつていた。夜間、梼原川の水力で作られた電力が、この82基を灯す。日中は、2009(平成21)年から梼原中学校棟の電気の90%



榜原川にある榜原町小水力発電所。流れ込み方式で最大出力53kW。年間発電量(平成21~24年平均)で282MWh。このほか、榜原川には電力会社が持つ水力発電所が3つある▶上写真は、取水口のゴミを取り除く役場担当の那須さん



戸梶さんは自宅の壁に太陽光パネルの紹介看板を設置。太陽光は固定価格買取制度で42円／kWhだったものが平成25年度から38円、来年度は32円／kWhに(予定)

町中心部では、太陽光パネルを乗せた家々が軒を連ねる

**光の力——太陽光利用で  
町民の環境意識も高く**

## 光の力——太陽光利用で 町民の環境意識も高く

そして、太陽光発電。町の公共施設の屋根にはすべて太陽光パネルが設置されている（総発電出力454・41kW）。また、個人住宅でも1770戸中114戸（平成24年3月末）と全戸数の6・4%が設置済だ。今年度は15戸増加

所」が中学校（現椿原学園）裏を流れる椿原川に新設されたのである。椿原川は1963（昭和38）年に大氾濫を起こし、のちに蛇行した川を災害復旧工事によってショートカットし、6mという人工的な落差ができるいた。その落差を利用しての小水力発電だった。

その後 1936(昭和11)年に電気事業の統制で発電所は呉へ移譲され、電力会社へと渡り、70年以上の時が流れた。

9)に村民が一丸となつて水力発電所を作つてゐるんです。村に電気を灯すためです。これがそもそもの自然エネルギーのはじまりです」(矢野町長)

をまかない、2012年4月からは、新たに小中一貫校として生まれ変わった町立梼原学園の電力源となっている。水力発電の役割が誰の目にも見える形で地域に浸透していた。

予定。この比率は全国でもトップクラスである。さらに、太陽熱温水器の設置も進む。

町内で、太陽光パネルを店舗兼自宅に設置した戸梶隆光さんには話を聞いた。

「平成9年に設置しましたが、



環境モデル都市推進協議会  
委員のロギールさん

「これができるのが、椿原のええところです」

最初はみんな『環境』と言われてもどういうことがわからんかった。でも最近は、町内でもみんな『環境モデル都市』を意識しているし、ゴミや野焼きの意識もがらっと変わりました。みんな『ええ町つくろう』ゆうて、一丸となつてやつています。

町が『環境』に取り組むんやつたら、自分たちもできることをやろうやといふ気持うござす。

毎月、太陽光で作った電気は電力会社に売り、使う電気を買う。相殺で支払ったり受け取ったり。うちは支払うばかりですが(笑)、一般家庭だと残るでしょうね。

町内でも早い方です。結構かかりましたよ。町の80万円の助成(20万円／1kW。上限4kW、町単独があつたので踏み切れました。うちは美容室をやっていますから少しでも負担が軽くなればと。

町内で、太陽光パネルを店舗兼自宅に設置した戸梶隆光さん  
に話を聞いた。



ロギール(Rogier Uitenboogaart)さん、手漉き和紙作家。1992年から梼原町で「Washi Studioかみこや」を開き、紙すき体験のほか現在は民宿も。土佐の匠、高知工科大学客員教授でもある

それ以上だつた。山の自然は厳しく、平地と比べればたいへんなことも多い。でも、梼原は文化を大切にして、山村のいい部分を見て、いこうとする大らかさがある。素敵でしよう。お互いの助け合いもあって、大きなアミリーのようですよ。

にたどり着いた。役場の手助けもあって四国カルストに近い太田戸集落（現在25戸）がロギールさんを迎えた。梼原町にとって、初代Ｉターン者である。「ここはカルストも近く自然も素晴らしい。神楽も棚田もあり、鍛冶屋さんもいて伝統や文化もある町。梼原を選んで正解。

※ NHKワールド：<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/>、2月22日（4時間限り放送）、NHK BS-1、2月23日放送予定

2006（平成18）年に橋原杉を使った橋原町総合役場が完成。設計協力は隈研吾氏。ブランケットまで地元の杉を利用。見学の来町者も多い。屋根に一体化された太陽光パネルは80kWの大容量の発電が可能

昨年12月に2期目に入った矢野富夫町長。第1回全国棚田サミット開催時は、役場総務課長として全国棚田（千枚田）連絡協議会発足に奔走



環境に暮らしている」と思いました。私自身は伝統的な和紙という環境に良いものづくりを、行政は環境経済を行い、お互いに良い影響を受けあえます。

ここに住んで約20年、かつてバリバリ外で働いていた人たちも高齢です。草刈り機の音、山で木を切る音といった外での作業音が少なくなつたのは確かにあります。これは全国的に同じ、大きな問題。でもここはみんな、自分たちができる事をやろうとしている。お互いに協力して、この地域の楽しいところが消えないようになります。地元が楽しくやれば、人は寄ってきます。

この工房にも研修生が来るようになつて3年。紙漉き体験に来たり、7年前から民宿もはじめましたから、年間約700人がここを訪れてています。今、TV局の海外向けインターネット配信番組やB/S番組（※）の取材を受けていますから、私も人を呼ぶ貢献をしているといえるかもしれませんね（笑）

口ギールさんが話すように、橋原町には来訪者が多い。伝統文化や棚田での体験を求めたり、坂本龍馬脱藩の道を訪ねたり、また環境への取り組みの視察や取材など目当てはさまざまだ。

橋原は山深く、当然、宿泊が伴うケースが多い。

環境に関する視察だけに限つてみても、2012（平成24）、2013年の2年間の行政視察だけで、のべ約2500人（約600組）が訪れている。それ以外に旅行会社が「環境モデル都市」（※）が訪れている。それ以外に「環境モデル都市」という町のあり方は、まだ目的の半分、道半ばということなのだ。

今後、環境だけでなく、すでに力を入れてきた子育てや教育、そして福祉政策を全国トップクラスにし、生まれてから亡くなるまで、健康で豊かな暮らしをみ出している。

橋原は藩政の頃から一揆の決行や藩への直訴など、重ねてきました。強さもあります。自分たちの力で不利なことや災害を克服してきた強さもある。町制が敷かれてからも、橋原は常に先導者として1番を目指してきたんです。だから、棚田オーナー制度すべてがクリニックという『ゆはら丸ごとクリニック』です。橋原で元気を養つてもらうわけです。滞在型になれば、雇用も生まれます。

また、平成22（2010）年に国道440号線が伸び、愛媛県久万高原町までトンネルが抜け道路が開通しました。地元の命の道です。これで、松山市まで90分で行けるようになったのです。今、愛媛との交流を進め、橋原をPR中です。働くのは高知や松山市内、でも暮らすのは橋原、というライフスタイルも可能になつたわけです。

橋原町は環境政策も進み、子育て支援や福祉も手厚い。ならば、暮らすのは橋原」というように選ばれる町を目指しています

（※1）「環境モデル都市」・2008（平成20）年よりスタートした環境モデル都市認定。橋原町は「低炭素社会づくりの実現に向けて温室効果ガスの大削減などへの取り組み」などが高く評価され、内閣総理大臣より2009年に認定。現在20市町が認定されている。小規模都市ゾーンでは4つのうちの1町。

（※2）「地熱利用の温水プール」・1998（平成10）年に地熱利用が町営の温水プールの熱源としてはじまつた。その後、「土」分野では1994（平成6）年には「土づくりセンター」を設立し、屎尿にもみがらを混ぜ堆肥化に取り組む。

（※3）「廃油の活用」・2010（平成22）年からは廃油によるバイオディーゼルごみ収集車を走らせている。

（※4）「モデル住宅」（写真）・町には「環境と健康に配慮した体験型不

造モデル住宅」（写真）..

（※5）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※6）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

環境に暮らしている」と思いました。私自身は伝統的な和紙という環境に良いものづくりを、行政は環境経済を行い、お互いに良い影響を受けあえます。

業者が少なくなつたのは確かにあります。これは全国的に同じ、大きくな問題。でもここはみんな、自分たちができる事をやろうと

している。お互いに協力して、この地域の楽しいところが消えないようにできることをやつてみます。地元が楽しくやれば、人は寄ってきます。

矢野町長は語る。

選ばれる町——橋原へ

【橋原は藩政の頃から一揆の決行や藩への直訴など、重ねてきました。強さもあります。自分たちの力で不利なことや災害を克服してきた強さもある。町制が敷かれてからも、橋原は常に先導者として1番を目指してきたんです。だから、棚田オーナー制度すべてがクリニックという『ゆはら丸ごとクリニック』です。橋原で元気を養つてもらうわけです。滞在型になれば、雇用も生まれます。

また、強さもあります。自分たちの力で不利なことや災害を克服してきた強さもある。町制が敷かれてからも、橋原は常に先導者として1番を目指してきたんです。だから、棚田オーナー制度すべてがクリニックという『ゆはら丸ごとクリニック』です。橋原で元気を養つてもらうわけです。滞在型になれば、雇用も生まれます。

（※1）「環境モデル都市」・2008（平成20）年よりスタートした環境モデル都市認定。橋原町は「低炭素社会づくりの実現に向けて温室効果ガスの大削減などへの取り組み」などが高く評価され、内閣総理大臣より2009年に認定。現在20市町が認定されている。小規模都市ゾーンでは4つのうちの1町。

（※2）「地熱利用の温水プール」・1998（平成10）年に地熱利用が町営の温水プールの熱源としてはじまつた。その後、「土」分野では1994（平成6）年には「土づくりセンター」を設立し、屎尿にもみがらを混ぜ堆肥化に取り組む。

（※3）「廃油の活用」・2010（平成22）年からは廃油によるバイオディーゼルごみ収集車を走らせている。

（※4）「モデル住宅」（写真）・町には「環境と健康に配慮した体験型不

造モデル住宅」（写真）..

（※5）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※6）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※7）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※8）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※9）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※10）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※11）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※12）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※13）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※14）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※15）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※16）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※17）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※18）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※19）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※20）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※21）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※22）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※23）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※24）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※25）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※26）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※27）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※28）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※29）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※30）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※31）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※32）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※33）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※34）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※35）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※36）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※37）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※38）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※39）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※40）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※41）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※42）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※43）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※44）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※45）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※46）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※47）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

炭素なまち」をキヤッチフレーズに設立。（①森

づくりの助成②新エネルギー設置（太陽光発電

・熱温水器、工事給湯等の新エネルギー・省エネ施設の導入

（※48）「森林セラピーロード」・NPO法人「森林セラピーソサエティ」が認証している森林セラピーベース地とロードが全国に53箇所ある。四国では

（※49）「環境基金」・橋原町環境基金は、風力発電

から生まれた収益を利用して「生き物に優しい低

# 新しい自治体会員

# 長野県小谷村

小谷村は、長野県の最西北部に位置し、東は長野市と新潟県妙高市に接し、西は白馬連峰を境として新潟県に接

し、南は白馬村、北は糸魚川市に接しています。村の面積は267・91km<sup>2</sup>でその86%を森林が占め、耕地はわずかに

右: 小谷村の風景  
上: 5月3日開催。塩の道祭り田んぼアート

左: 塩の道祭りの様子



1.6%です。村の中央を日本海に北流する姫川と、その支流である中谷川、土谷川に沿つて54の集落が散在しています。この姫川に沿つて縦断する糸魚川静岡地質構造線により、もろくて弱い地質地帯があり、広範囲に及び、東側は地味が豊かですが、せい弱で、西側は比較的緩斜面が続くため高い原的景観を有し、良質なスキーゲレンデが作られています。

また、日本海から松本平まで縦貫し、信州の東山道へと通ずる道として古くから伝わる「千国街道」塩の道があります。信州と越後を結ぶ動脈として、塩・麻など海陸の物資が運ばれ続けるための道として知られており、戦国期には越後の上杉謙信が甲斐の武田信玄に、牛馬の隊列を整えて塩を送つたのも千国街道のことでした。

北アルプスに雪形が姿を現す5月初めには、小谷村・白馬村・大町市の3市村を継ぐ塩の道を楽しく歩く「塩の道祭り」が盛大に行われており、毎年多くの観光客にお越しただいています。

小谷村では、小谷に来ていただける都市住民の方などに対し、「農作業を通じて小谷の自然環境を満喫してほしい」「都市住民との交流によ

ります。塩の道祭り田んぼアートの縦貫し、信州の東山道へと通ずる道として古くから伝わる「千国街道」塩の道があります。信州と越後を結ぶ動脈として、塩・麻など海陸の物資が運ばれ続けるための道として知られており、戦国期には越後の上杉謙信が甲斐の武田信玄に、牛馬の隊列を整えて塩を送つたのも千国街道のことでした。

塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。

1.6%です。村の中央を日本海に北流する姫川と、その支流である中谷川、土谷川に沿つて54の集落が散在しています。この姫川に沿つて縦断する糸魚川静岡地質構造線により、もろくて弱い地質地帯があり、広範囲に及び、東側は地味が豊かですが、せい弱で、西側は比較的緩斜面が続くため高い原的景観を有し、良質なスキーゲレンデが作られています。

また、日本海から松本平まで縦貫し、信州の東山道へと通ずる道として古くから伝わる「千国街道」塩の道があります。信州と越後を結ぶ動脈として、塩・麻など海陸の物資が運ばれ続けるための道として知られており、戦国期には越後の上杉謙信が甲斐の武田信玄に、牛馬の隊列を整えて塩を送つたのも千国街道のことでした。

塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。

1.6%です。村の中央を日本海に北流する姫川と、その支流である中谷川、土谷川に沿つて54の集落が散在しています。この姫川に沿つて縦断する糸魚川静岡地質構造線により、もろくて弱い地質地帯があり、広範囲に及び、東側は地味が豊かですが、せい弱で、西側は比較的緩斜面が続くため高い原的景観を有し、良質なスキーゲレンデが作られています。

また、日本海から松本平まで縦貫し、信州の東山道へと通ずる道として古くから伝わる「千国街道」塩の道があります。信州と越後を結ぶ動脈として、塩・麻など海陸の物資が運ばれ続けるための道として知られており、戦国期には越後の上杉謙信が甲斐の武田信玄に、牛馬の隊列を整えて塩を送つたのも千国街道のことでした。

塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。

1.6%です。村の中央を日本海に北流する姫川と、その支流である中谷川、土谷川に沿つて54の集落が散在しています。この姫川に沿つて縦断する糸魚川静岡地質構造線により、もろくて弱い地質地帯があり、広範囲に及び、東側は地味が豊かですが、せい弱で、西側は比較的緩斜面が続くため高い原的景観を有し、良質なスキーゲレンデが作られています。

また、日本海から松本平まで縦貫し、信州の東山道へと通ずる道として古くから伝わる「千国街道」塩の道があります。信州と越後を結ぶ動脈として、塩・麻など海陸の物資が運ばれ続けるための道として知られており、戦国期には越後の上杉謙信が甲斐の武田信玄に、牛馬の隊列を整えて塩を送つたのも千国街道のことでした。

塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。塩の道祭り田んぼアートは、塩の道祭りの際に開催されるイベントで、塩の道の沿線で行われます。



## 棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局  
熊本県山都町 農林振興課内

〒861-3663 熊本県上益城郡山都町新小886

T E L : 0967-722-1136

F A X : 0967-722-1066

協議会 HP:<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 編集後記

本号は「第19回全国棚田サミット」特集号です。サミット開催地の和歌山県有田川町のみなさま、サミットではお世話になりました。本当にありがとうございました。参加者は800人を超え、大学生の参加や地元の方々の協力も多く、活気あふれるサミットがありました。裏方で地元の中学生や高校生たちががんばっている姿は微笑ましく、また頼もしく感じられました。さて、年が明け、2014年を迎えるにあたりました。今年は、全国棚田(千枚田)連絡協議会発足20周年。全国棚田サミットも第20回目を迎えます。発足から20年の歩みを振り返れば、棚田地域が立ち上がってつながり、広く「棚田」を知らしめて来た20年だったのではないかでしょうか。来年度は、20周年を意識した「ライステラス」をお届けしたいと思います。石井里津子



展望台から眺めるあらぎ島。川の蛇行が生み出した景観美を維持する営農のたいへんさにみな脱帽



三田地区の婦人会仲間と元気に出迎えてくれた山村コニ口さんは今年100歳(左から2番目)!!スマホも使える地区的前部長(土屋和大撮影・記)



こちらは沼の93歳!元気な道上トミさん(左)と87歳の沼井ツタエさん(右)。旗を振つてのお出迎え



三田区「ふるさと守る会」の皆さんが一晩寝かして作った「鮓寿司」の味は最高(土屋和大撮影・記)



和歌山大学生も地元も、みんなおそろいのピンクジャンバー



生け花の材料を集め、和歌山大学生(左2人)とともに生けた松田貞さん(右)



地元中学生も大活躍。お弁当とお茶を参加者に声掛けしながら渡す



エンディングイベントは、地元の伝統文化となっている「餅投げ」。みんなもう我を忘れて夢中に



有田中央高校のメンバーは、「わたしたちがつくったお味噌汁」をお弁当にあわせて振る舞つた



弁当の空き箱を参加者から集め、ペットボトルも洗う中学生たち。感謝感謝

まぐろの解体ショー!

和歌山ならではの粋なもてなしに舌鼓



交流会の料理は、地元の山椒、柑橘……、海の幸も加わり、贅沢な味。多くの裏方のみなさまに支えられて……「ごちそうさまでした!」



交流会会場で長崎県波佐見町鬼木棚田協議会のメンバーは、波佐見焼のマイカップを持参しての乾杯! 年9月に波佐見町が「波佐見焼の器で乾杯を推進する条例」を施行し、棚田サミットでもアピール!



共同宣言は、あらぎ島の耕作者である畠中辰也さん一家が行った。小さな子ども4人の姿に、次世代への期待が集まり拍手も盛大

楽しかったです  
佐渡棚田びと  
(新潟県佐渡市 岩首棚田農家)  
大石惣一郎さん



2日目のお弁当。地域のおいしさばかりを詰めた暮の内はサミットのために考案されたもの。美味秀逸